

別表5（認定品目：再生資源を含有した舗装用ブロック）

認定基準	
項目	基準
①対象資材	<ul style="list-style-type: none"> 別表5-1に掲げる再生資源を含有した舗装用ブロックであること。これら以外の再生資源を含有しないこと。 舗装用ブロックの区分は別表5-2のとおりとする。
②品質性能	<ul style="list-style-type: none"> インターロッキングブロックについては、以下のいずれかの規格に適合していること。 <ul style="list-style-type: none"> a JIS A 5371 附属書B（舗装・境界ブロック類）のうちインターロッキングブロックに関する規格 b JASS 7 M-101 舗装用れんがについては、以下の規格に適合していること。 <ul style="list-style-type: none"> a JASS 7 M-101 木質ブロックについては、以下の規格の「3. 品質」を満たしていること。（寸法の許容差については、材質「れんが」を準用する。） <ul style="list-style-type: none"> a JASS 7 M-101
③再生資源の含有率	<ul style="list-style-type: none"> 別表5-1に掲げる再生資源を、製品重量比で別表5-1に掲げる含有率以上含有していること。 環境負荷低減等の効果が認められるものについては、この含有率の限りでない。
④環境安全性	<ul style="list-style-type: none"> 製品又は再生資源が溶出量基準Ⅱ群に適合すること。ただし、上水汚泥を再生資源として使用する場合は、製品又は再生資源が溶出量基準Ⅰ群に適合すること。 鉄鋼スラグ、下水汚泥溶融スラグ又は一般廃棄物溶融スラグを再生資源として使用する場合は、併せて、製品又は再生資源が含有量基準群（シアンに係る基準を除く。）に適合すること。 コンクリート塊のみを再生資源として用いる場合は、基準は適用しない。 上記に定める物質以外の溶出、含有が懸念される場合は、懸念される物質が基準に適合していること。
⑤品質管理	<ul style="list-style-type: none"> 公的規格等取得工場、準公的規格等取得工場、ISO9001認証取得工場又は、JASS 7 M-101の「3. 品質」を満たす製品の製造工業で製造等がなされ、当該規格等に沿った品質管理がなされること。
⑥環境負荷	<ul style="list-style-type: none"> 再生資源を含有しない製品を使用した場合に比べ、別表5-3に示す項目について、総合的に環境負荷が増大しない、又は環境負荷低減効果があること。

別表5-1 再生資源の分類区分と含有率基準

再生資源	再生資源含有率		
	常温成形品	焼成品、溶融品	加圧成形品
コンクリート塊 鉄鋼スラグ（高炉スラグ、電気炉酸化スラグに限る。） 陶磁器くず（廃瓦、レンガくず、陶器くず、磁器くず） 廃ガラス 採石及び窯業廃土 フライアッシュ	60%	50% ^{注1)}	—%
下水汚泥溶融スラグ 一般廃棄物溶融スラグ 上水汚泥 ^{注2)} （焼却灰を除く。）	50%	40% ^{注1)}	—%
再・未利用木材（間伐材を含む。）	—%	—%	100%
注1) 溶融品に少量の着色剤を添加する製品は、基準配合率の算定に用いる全原料の重量に着色剤の重量を含まない。 注2) 常温成形品は溶融スラグに限る。			

別表 5-2 舗装用ブロックの区分

材質による区分	用途・形状による区分
インターロッキングブロック	①普通インターロッキングブロック
	②透水性インターロッキングブロック
	③植生用インターロッキングブロック
	④視覚障害者用インターロッキングブロック
舗装用れんが	①普通舗装用れんが
	②透水性舗装用れんが
	③植生用舗装用れんが
木質ブロック	普通ブロック

別表 5-3 環境負荷増減状況

	段階	新材製品との比較内容
環境負荷増減検討項目	製造	ア 製造段階で新材からの製造に比べ、エネルギー消費量の増大、地球温暖化物質の増加、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭、有害物質の排出など環境負荷が増大していないか。
	流通	イ 新材による製品製造に比べ、原料や製品の運搬距離が著しく長くなり、エネルギー、地球温暖化物質等による環境負荷を与えないか。
	使用消費	ウ 施工時及び使用時に有害物質が溶出したり粉塵等として排出される可能性はないか。
	廃棄	エ 廃棄時に新材による製品に比べ処理困難物とならないか。埋立等により生態系の破壊を引き起こさないか。
	再リサイクル	オ 再リサイクルは可能か。再リサイクルへの取組は実施しているか。 カ 再リサイクルの段階において著しく環境負荷が増大しないか。